



やまなし サイエンスラボ

山梨の産業の活性化や県民生活の
向上を目指す試験研究機関の紹介

vol. 8 富士山科学研究所



富士山のマグマを重力計で監視し 火山活動の観測体制を強化

富士山科学研究所では、富士山の噴火予測に貢献し、噴火に備えた防災対策
につなげていくため、新たに重力計を使った観測を取り入れ、観測体制の強化
を図っています。

富士山の自然環境を 研究し次世代につなぐ

富士山科学研究所は、平成9年に
山梨県環境科学研究所として開設さ
れ、富士山をはじめとした県内の自然
環境などを研究しています。平成25年
の富士山の世界文化遺産登録を機に、
平成26年4月、富士山科学研究所に
組織改編し、それまで積み重ねた研究
成果を基に、富士山の環境保全や火山
防災などの研究を強化することとな
りました。研究所には、環境教育や情
報発信などを行う部門のほか、自然環
境、環境共生、火山防災の各研究部門
があり、富士山を次の世代に引き継ぐ
ため、さまざまな角度から科学的に研
究を行っています。

重力計で富士山の マグマの動きを監視

私が所属する火山防災の研究部門
では、主に富士山の噴火履歴や予測に
関する調査・研究に取り組んでいま
す。これまで地震計などを使って火山
活動の観測・研究を行ってきましたが、
従来の観測方法だけでは限界がある
ため、重力計を使ってマグマの動きを観
測する体制を整備しています。例え
ば、良くできた食品サンプルと本物を
見分けるためには、目で見るだけでな
く、匂いをかいだり、触ってみたりしま
す。それと同じように、火山活動の観
測においても、地震活動や地殻変動な
どのほかに重力という別の要素をプラ
スすることで、噴火予測に関する研究



富士山科学研究所
本多 亮 研究員

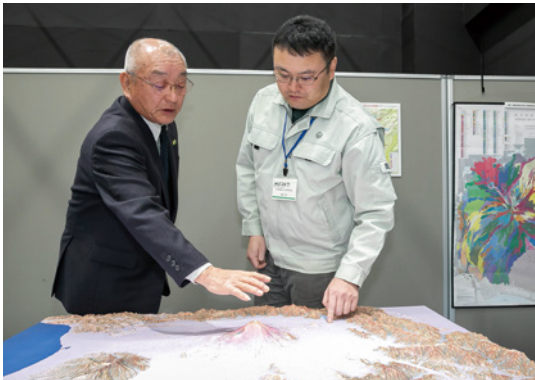


研究所と連携し
地域住民の
防災意識を高めて
いきたいです

富士吉田防災士会
会長
渡邊 俊久さん

富士吉田防災士会は、平成27年、地域の防災・減災力を高めていくために発足しました。富士山を訪れる登山者や観光客だけでなく、地域住民の中にも、富士山は噴火しないものだと楽観視している人が少なくありません。しかし、噴火はいつ起きてもおかしくないという意識を持つことが大切です。いざというときに一人ひとりがしっかり対応できるよう、私たち防災士は、防災意識の啓発や防災訓練の支援など、さまざまな活動を続けています。

そんな私たちにとって、富士山に関する専門的な研究を行い、その成果を教えてくれる研究所の存在はとても心強いです。これからも連携を図りながら、地域住民の安全・安心な暮らしのため、活動していきたいと思っています。



「防災士会は、地域との連携を深めていくためにも、頼りがいのあるパートナーです」「研究所の研究成果を地域の方々にもっと知ってもらいたいです」とお互い信頼関係を築いている

富士山科学研究所



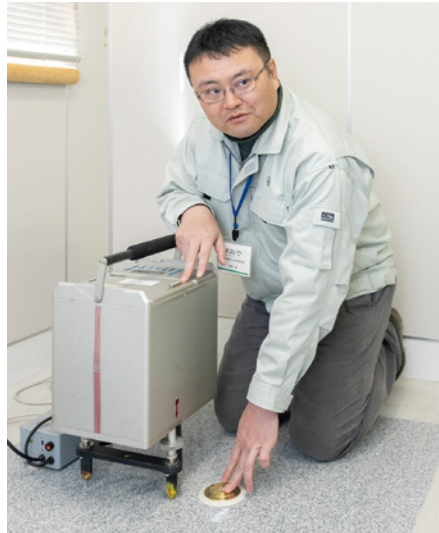
【問い合わせ先】

住所：富士吉田市上吉田字剣丸尾5597-1

TEL:0555-72-6211 FAX:0555-72-6204

富士山科学研究所

検索



研究所内に設置した重力計。今年は新型機を導入する



「赤色立体地図による富士山の立体模型」(アジア航測 作製)
地形の詳細な高低差が分かるほか、溶岩が流れる方向のシミュレーションもできる



このレベルを向上させることができます。重力には、実際に物が動くとその動きを検知でき、重い物が近くに来ると大きくなるという性質があります。これを重力計で観測することにより、地下のマグマの動きを把握することができます。こうした火山活動の観測データは、さまざまな防災対策に役立てるため、当研究所のホームページなどで公開していく予定です。今年導入する新型の重力計は、観測の拠点となる当研究所に設置し、現在使用している機器を富士山4合目と5合目に設置します。このように複数の地点で観測を行うことで、マグマの動きをより正確に推測することができます。

**地域との連携を図り
防災対策を推進**

噴火は起こらないに越したことはないのですが、万一の際には、気象庁などと連携する中で適切な情報を発表し、人々が自ら命を守る一助になればと思います。こうした情報を発表するに当たっては、地域の皆さんとの信頼関係が不可欠ですので、日ごろから防災対策についての連携を図ることが大切になります。

富士山には国内外から多くの人が訪れます。今後も、常に緊張感を持って観測・研究を行い、迅速に、確実な情報を提供できるよう努めていきたいです。